

称名寺（東区馬出）が所蔵する古文書が 新たに福岡市有形文化財に指定されました

令和5年2月10日(金)に開催された福岡市文化財保護審議会（会長 佐伯弘次^{さえきこうじ}）において、東区馬出^{しょうみょうじ} 称名寺が所蔵する古文書8点を、福岡市有形文化財に指定することが妥当である旨、答申がなされました。令和5年3月23日付け福岡市公報に登載される告示日をもって、正式な指定となりました。

- | | |
|--------|------------------------------------|
| 1 区分種別 | 有形文化財（古文書） |
| 2 指定名称 | 称名寺文書「武家之文章」（しょうみょうじもんじょ ぶけのぶんしょう） |
| 3 員数 | 8点 |
| 4 所在地 | 福岡市東区馬出4丁目1-50 |
| 5 所有者 | 宗教法人 称名寺 |

【概要】

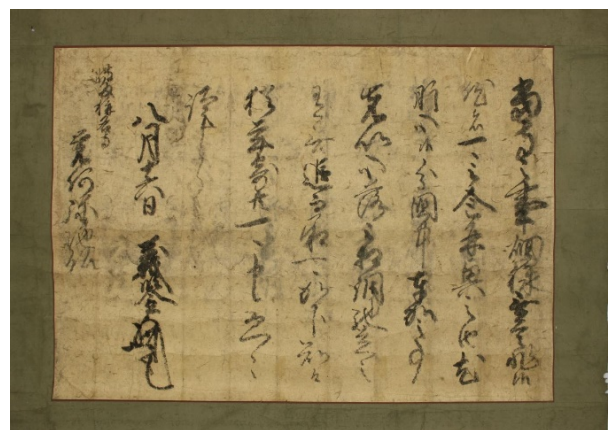
称名寺は、福岡市内に三ヶ寺ある時宗寺院の一つで、元応2年（1320年）に創建されました。当初は、片土居町（下川端付近）の一角、現在博多座がある一帯に鎮座し、別名「土居道場」とも呼ばれていました。博多大仏があることでも知られた古刹でしたが、明治末期からの道路拡幅に伴う区画整理のため、大正後期より馬出に移転し、現在に至ります。

称名寺文書「武家之文章」は、称名寺の寺宝として伝えられた、戦国時代の古文書です。江戸時代の地誌にも掲載されていることから、内容は広く知られていますが、原本である本文書は長らく所在不明となっていました。そのため、これまで現存しているのかすらわからない幻の古文書とされてきましたが、平成30年度より当市が行っている福岡市内寺社資料調査事業により、発見に至りました。

中世博多の様相を伝える古文書の原本は、数が少ないことから元来稀少な歴史資料と言えます。それに加え、これまで発見が切望されてきた古文書である点、地誌だけではわからなかった様々な情報が明らかになったという点から、本古文書は当市にとって大変貴重で、歴史的価値が高いものです。



称名寺文書「武家之文章」8点



大友義鑑書状（1号文書）
大友義鑑は戦国大名で大友宗麟の父